

平取町観光振興ビジョン

令和元年 11 月

平 取 町

目 次

第1章 観光振興ビジョンの策定にあたって	1 - 1
1 背景（計画策定の趣旨）	1 - 2
2 目的と位置づけ	1 - 3
第2章 平取町の観光の現状と課題	2 - 1
1 平取町の現状	2 - 2
（1）地域の概要	2 - 2
（2）地域資源	2 - 3
（3）観光特性	2 - 5
2 平取町観光の課題	2 - 7
第3章 観光振興ビジョンの基本的考え方	3 - 1
1 基本理念	3 - 2
2 目 標	3 - 2
3 基本方針	3 - 3
波及効果の裾野を広げる	3 - 4
第4章 施策体系と基本施策	4 - 1
1 施策体系	4 - 2
2 計画推進のための基本施策	4 - 3
第5章 アクションプログラム	5 - 1
1 アクションプログラム	5 - 2
（1）「びらとり・食と文化のネットワーク」プログラム	5 - 3
「びらとり・食と文化のネットワーク」プログラムスケジュール	5 - 4
（2）「にぶたに・文化と憩いのネットワーク」プログラム	5 - 5
「にぶたに・文化と憩いのネットワーク」プログラムスケジュール	5 - 6
（3）「森と海を川でつなぐネットワーク」プログラム	5 - 7
「森と海を川でつなぐネットワーク」プログラムスケジュール	5 - 8
（4）「心をつなぐ・おもてなしネットワーク」プログラム	5 - 9
「心をつなぐ・おもてなしネットワーク」プログラムスケジュール	5 - 10

第 1 章 観光振興ビジョンの策定にあたって

1 背景

(計画策定の趣旨)

我が国は、人口減少と急速に進む少子高齢化により、需要の減少や市場の変化による地域産業や地域経済の縮小、地域コミュニティの機能低下、地域文化の継承といった問題が深刻化することが懸念されています。

平取町においても、平成20年度には5千人台となった後、平成30年3月末には5,093人まで減少し、今後も人口減少の傾向は続くものと推測されています。

このような人口減少社会の中にあって、今後、地域が活力を維持していくためには、雇用の場の確保や地域を担う人材の確保等、本町の定住人口を増やす取り組みだけではなく、他市町村から本町へ訪れてもらうなど、交流人口の拡大による地域活性化に向けた取り組みが重要となります。

また、観光振興に向けた取り組みは、地域に対する経済波及効果や、雇用創出力などを持ち、地域活性化の切り札として期待されており、住民と観光客との交流、観光を足掛かりにした新規定住者の獲得、地域イメージの向上、社会基盤の充実、町の魅力や価値の再発見、他地域との相互理解を生みだします。

平取町では、平成24年3月に「平取町観光振興ビジョン」（以下、「観光ビジョン」という）を策定し、「沙流ユーカラ街道・食と文化のネットワーク」「にぶたに・文化と憩いのネットワーク」「自然と歴史のフットパス・ネットワーク」のプログラムを展開し、地域の観光資源の魅力を高めながら、滞在型観光につなげるため官民一体となって観光振興に取り組んできました。

しかしながら、観光を取り巻く情勢は、国策によるインバウンド※（訪日外国人旅行者）誘客、「参加・体験型」への旅行目的の変化等、今後も観光ニーズは多様化すると考えられます。こうした観光情勢の変化に対応していくためには、本町が有する豊かな自然と歴史文化に恵まれた観光資源等をさらに磨きをかけ、積極的に活用していくことが重要となります。

また、平取町の特色であるアイヌ文化に関しては、国の事業で2020年4月白老町に「国立アイヌ民族博物館」「国立民族共生公園」が完成することから、今後平取町に訪れる機会をどのようにつくっていくかが課題となっています。

本計画は、地域の魅力を内外に広く発信するとともに広域的な観光振興に取り組み、ウェブやSNS等を活用した情報発信、分析・プロモーション、効果的なマーケティング等、平取町の新たな観光振興の指針として、町民、事業者、関係団体が力を合わせ、地域活力の維持、地域経済の発展を目的として、戦略的に観光地域づくりを進めていくため策定するものです。

※ インバウンド：外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行といます。

2 目的と位置づけ

平取町は沙流川の清らかな流れが育んだ雄大な自然のもと、この地に先住し自然を敬い共生してきたアイヌの人々や先人達が共に築いた歴史や文化を守り、農林業を基幹産業として発展してきました。平取町の基幹産業である農業、とりわけトマトの販売額は平成30年度も40億円を越え、日本でも有数の産地になっています。

一方で、町内の人口は昭和35年の1万3千人台をピークに減少の一途をたどり、平成30年3月末には5,093人となり年々減少しております。農業分野だけに限らず、就業者の高齢化・後継者不足は深刻な状況になっています。平成23年秋に道東自動車道が全線開通したことで、これまでは苫小牧方面からの通過地点であった平取町はその通過ルートとしての位置付けも薄らぐことになり、交流人口も一層の減少が避けられないことが予見されており、地域経済の維持発展には喫緊の対策が必要となっています。

地元産業を活用した地域間交流促進の取り組みは、地域の自立、継続的な成長を支える上でこれからの「まちづくり」に不可欠な視点と言えます。既に平取町には世界的に評価が高いアイヌ文化資源やブランド産品等、一級品の地域資源があります。

こうした情勢を踏まえ、平取町では観光をきっかけとする交流型のまちづくりを進めることで、産業を活性化し、雇用の機会をつくり、定住人口の増加につなげていくことを目標に、今後の観光施策の指針となる観光振興ビジョンを策定します。

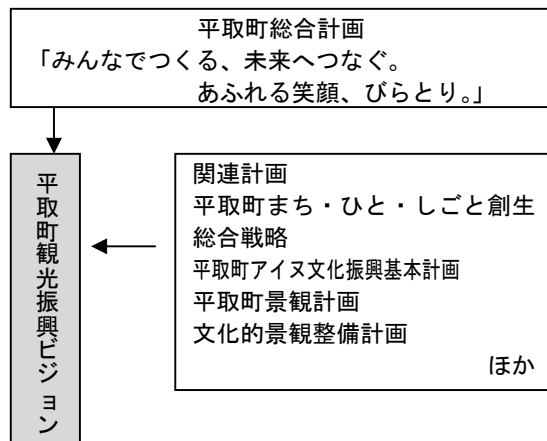
計画期間

令和元年度から令和5年度までの5カ年

本観光振興ビジョンは、上位計画である「第六次平取町総合計画」（2016～2025年）における観光振興の基本的な計画に位置付けられるものであり、本町の観光振興の基本理念や将来的な方向性を示すとともに、町民、事業者、行政などが協働し、前観光振興ビジョンを踏まえ、観光振興施策を計画的に推進するための指針です。

第六次平取町総合計画の目標では、「町内の各拠点施設を充実することにより交流人口の増加を図り、地域資源の掘り起こしや観光資源を活かした着地型観光プランの展開、地域や関係機関と情報共有を図りながら観光客の多様なニーズに対応し、近隣町とも連携し広域観光の振興を図ります」としています。

このため、平取町観光振興ビジョンは、上位計画の方針や関連する諸計画との整合を図りながら必要に応じて見直しを行います。



第2章 平取町の観光の現状と課題

1 平取町の現状

(1) 地域の概要

1) 立地

平取町は、日高管内の北西端に位置しており、町の総面積は743.09k㎡で、そのうち約8割が林野を占めています。町内を流れる沙流川やその支川沿いに拓かれた緑豊かな町で、“平取”という町名はアイヌ語の「ピラウトウル」(ガケの間)からきています。

2) 交通アクセス

平成18年3月に日高自動車道が日高富川ICまで開通し、札幌からの所要時間は約1時間半、新千歳空港からは約1時間になりました。

公共交通は昭和61年に富内線が廃線となって以降、都市間バスまたは、JR 富川駅からの路線バスのみとなり、運行本数も少ないため、公共交通を利用した観光が難しい状況になっています。

3) 人口

最も人口が多かった昭和35年の13,387人以降、右肩下りの減少傾向が続いています。『第6次平取町総合計画2016-2025』で、「令和7年度には4,538人」となると推計され、「平成27年の5,372人」より15.5%減少し、生産年齢人口と年少人口の減少が顕著になってきています。

4) 地域産業

産業別就業者構成では、第三次産業が47%、第一次産業が36%となっています。農業が町の基幹産業で、トマト、米、胡瓜の栽培が盛んで、畜産では和牛、牛乳、肉豚の生産が大きなウエイトを占め、特にトマトは年販売額で40億円を超え(平成30年)、「びらとりトマト」やその加工品「ニシパの恋人」はブランド化し、主に関東や関西方面に出荷されています。

平取町の位置

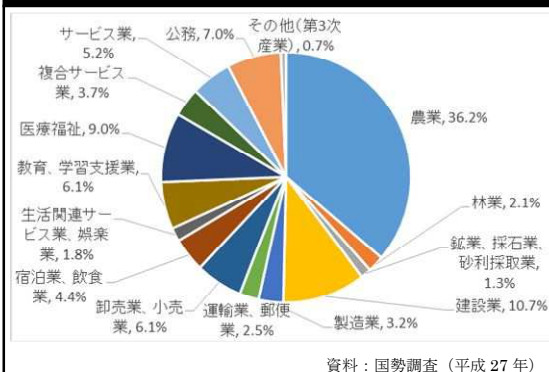


出展：平取町オフィシャルホームページ

平取町の人口の推移



15歳以上就業者産業別構成(平成27年)



(2) 地域資源

■食と農

「びらとりトマト」「びらとり和牛」「びらとり黒豚」など特産品や、山菜、きのこ等があります。トマトは、「ニシパの恋人ジュース」等の加工品、「ニシパの恋人ランチ」といった地産地消活動や平取高校生の地域の食材を使ったメニュー開発等、町内外でのPR活動も活発になってきています。一方で、週末に利用できる飲食店や、特産品等の地場産品を購入できる小売店が少ない状況にあります。

■歴史・文化

平成19年度に選定された重要文化的景観や、国の重要無形民俗文化財に指定され、さらにユネスコ無形文化遺産にも登録されているアイヌ古式舞踊、北海道遺産のアイヌ語地名・アイヌ文様(木彫・刺繍)・アイヌ口承文芸があります。

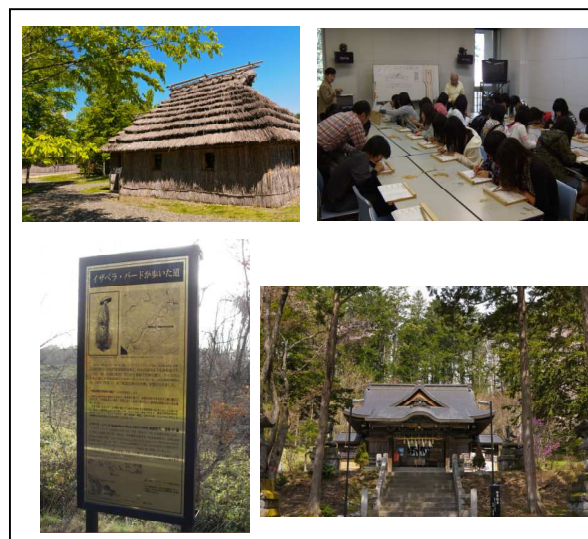
平取町立二風谷アイヌ文化博物館の展示・収蔵資料は、文化庁より重要有形民俗文化財の指定を受けております。また、平成25年3月には、経済産業省から「二風谷イタ」「二風谷アットゥシ」が「伝統的工芸品」の指定を受けました。伝統的工芸技術は、高い評価を得て現在も受継がれていますが、伝統工芸家は減少し、1980年代には二風谷地区に30店舗も軒を連ねていた工芸店は減少しましたが、伝統的家屋チセ群等の復元や、二風谷コタンの整備、伝統料理講習、工芸品のブランド化等の新たな動きが活発になりつつあります。

アイヌ文化以外にも「義経神社」や「旧マンロー邸」「イザベラ・バードが辿った道」等の歴史・文化資源があります。

■自然

日本百名山の幌尻岳には、全国から登山客が訪れ、蛇行しながら町内を南北に貫流する沙流川は、数々の伝説や伝承を残す奇岩をちりばめた独特の景観を生み出しています。また、沙流川やその支流からは銘石、鑑賞石が採れることでも有名です。

重要文化的景観選定区域内にあり、日本一の面積を持つすずらん群生地は、毎年「すずらん観賞会」が開催され、多くの観光客で賑わいます。一方、近年は花貌が年々小型化し、群落地内によっては株の減少もみられるようになってきています。



■観光施設

二風谷には平取町立二風谷アイヌ文化博物館、沙流川歴史館、萱野茂二風谷アイヌ資料館、旧マンロー邸といった文化施設が集中しています。

二風谷ファミリーランドには、温泉やキャンプ場、パークゴルフ、テニスコートなどの附属設備が充実しています。町内には、団体が利用できる大型宿泊施設が少ないことから、滞在型観光ではなく、通過型観光が主となっていました。新たなびらとり温泉「ゆから」や平取町アイヌ工芸伝承館（ウレシパ）が出来たことにより、滞在型や着地型観光に期待が持たれております。

平取町立二風谷
アイヌ文化博物館



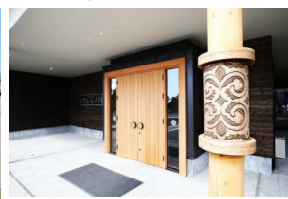
二風谷
ファミリーランド



びらとり温泉
ゆから



平取町アイヌ工芸伝承館
ウレシパ



■イベント

集客型の「すずらん観賞会」「沙流川まつり」「PK グランプリ」や、伝統行事である「義経神社例大祭」「チッサンケ」などがあります。

5月～6月
すずらん観賞会



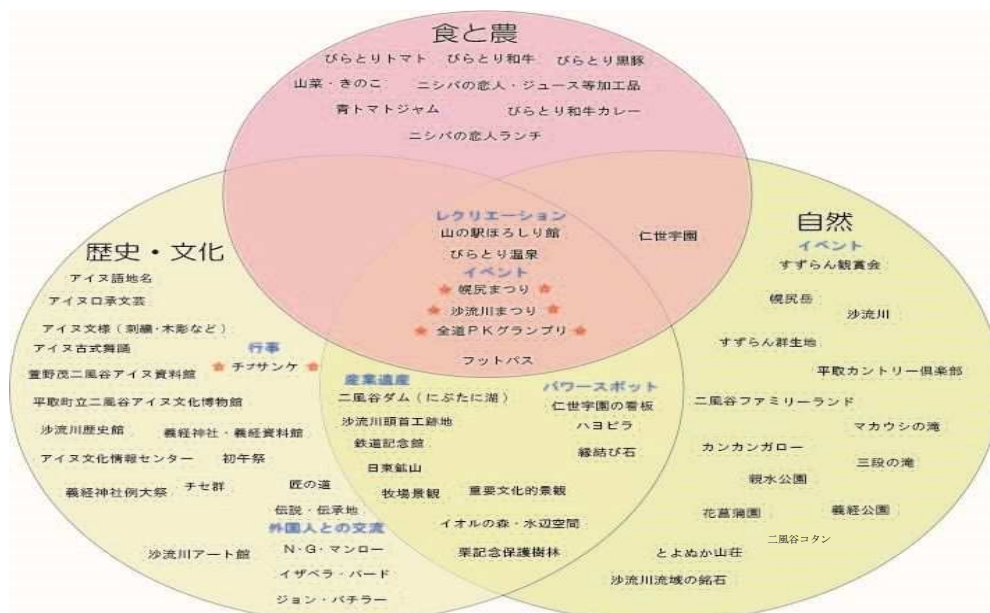
9月 沙流川まつり



8月 チッサンケ



2月 PK グランプリ



(3) 観光特性

1) 観光入込客数

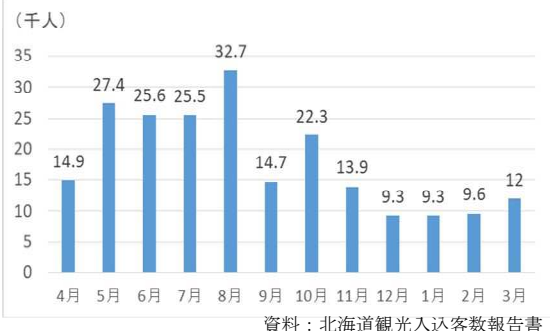
観光入込客数は、平成13年から年間16万人前後で推移してきましたが、平成20年以降は一時期減少傾向にありましたが、平成26年にびらとり温泉が「ゆから」としてオープン後は、平均20万人前後で推移しており、観光拠点施設としての役割を担っています。

また、平取町を含む日高管内7町村の平均と比較しても、平取町を訪れる観光客は道外客・宿泊客の割合が低い、という特徴がありましたが、平成26年6月にびらとり温泉をリニューアルし、びらとり温泉「ゆから」としてオープン後は、町内外からの滞在する観光客も増えております。月別では下期(10月～3月)の観光振興が課題となっています。

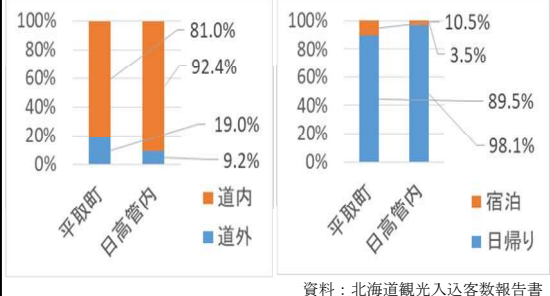
観光入込客数の推移



月別観光入込客数(平成30年度)

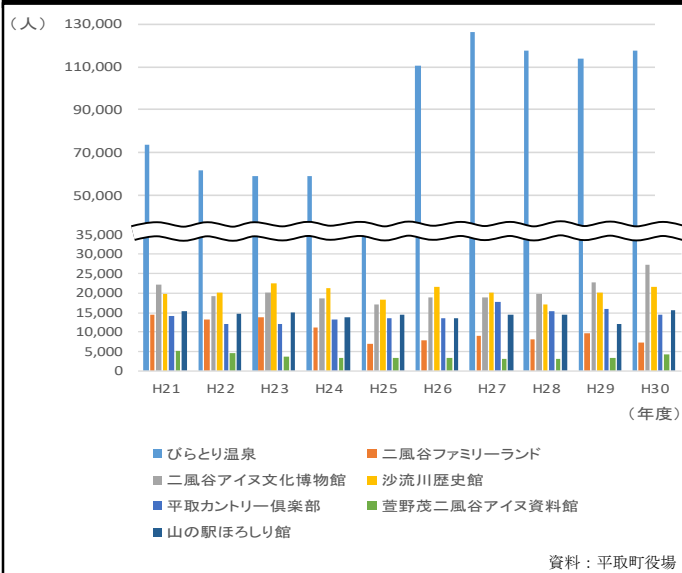


道内/道外比率と宿泊/日帰り比率(平成30年度)



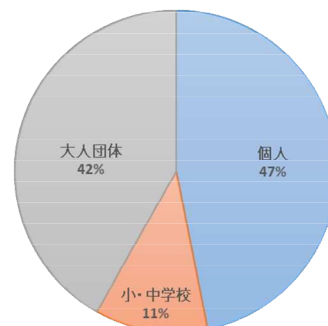
施設別では、アイヌ文化関連施設の入館者数が減少傾向にありましたが、二風谷アイヌ文化博物館の入館者数は、平成28年度には19,800人、平成29年度は22,800人、平成30年度は27,100人、萱野茂二風谷アイヌ資料館の平成28年度の入館者数は、2,900人、平成29年度が3,400人、平成30年度が4,200人となり少しずつ回復傾向にあります。

主な施設入込の推移



二風谷アイヌ文化博物館は道外からの学校・団体の利用が多いのが特徴で、入館者全体の半数以上を占めています。平成17年から平成21年までは、一度訪れた団体に二度目以降の利用が少ない傾向もありましたが、その後学校・団体等のリピート率も上向きになってきています。

二風谷アイヌ文化博物館の入館者内訳

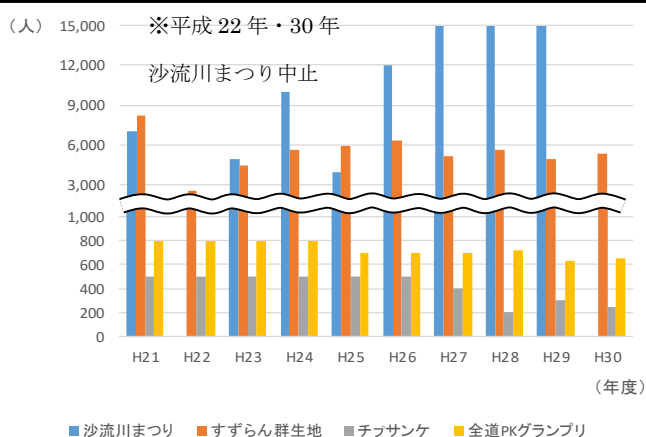


【平成30年度入館者内訳】

資料：平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報

町内で開催しているイベントでの入込客数が最も多いのは沙流川まつりで15,000人を集めます。すずらん観賞会（群生地）は、かつて1万人以上を集めていましたが、近年は5,500人前後と減少傾向にあります。他のイベントへの入込は千人以下となっています。

イベント入込数の推移



資料：平取町役場

2) 観光イメージ・観光ニーズ

アイヌ文化と日本百名山のひとつである幌尻岳は道外でも知名度が高い資源です。一方、びらとりトマトは道内では広く知られていますが、全国的には産地としては知名度が高いとは言えません。

平取町は道内・道外を問わず、観光地としてまだ、あまり認知されていませんが、さらにテレビや旅行雑誌、情報雑誌等のメディアへの露出も増やしながら、観光地としてのイメージも高めなければなりません。

3) 平取町を取り巻く観光動向

- ・ニセコエリア・富良野観光圏等へのインバウンドが増加している。
- ・白老町のウポポイ（民族共生象徴空間）の整備。
- ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」が国内の世界遺産推薦候補に選定された。
- ・空知の炭鉱、室蘭の鉄鋼、小樽の港湾そしてこれらを結ぶ鉄道など、「炭鉄港」が、日本遺産として登録された。

2 平取町観光の課題

① 観光基盤に関する課題

- 白老町の「象徴空間」整備後に平取町へ誘客するための新たな魅力発信や差別化の工夫が必要です。
- 農業・林業・飲食店など地場産業との連携が少ないため、地域資源の組み合わせた観光プログラムの選択肢が不足しています。
- 観業に携わる企業や人材（マンパワー）が少ないのが実状です。
- 外国人観光客に対応できる受入れ体制の整備が進んでいません。
- 鶴川・沙流川 WAKUWAKU 協議会、地域連携 DMO を使った観光が活かしきれていません。
- 文化的景観の PR やガイドの養成（育成）が不足しています。

② 交通アクセスに関する課題

- 道東自動車道の全線開通や函館新幹線開通による観光客の減少等により、新たな観光モデルルートの開発や、地域内の二次交通網体系の整備が必要になってきます。

③ 地域資源の活用と保全に関する課題

- 豊富な観光資源がありながら、平取らしさを活かした観光メニューが少なく、十分に活かしきれていません。
- 農産物を地元で料理して提供したり多品種少量販売したりする場が少なく、お土産品となる特産品や体験プログラムが少ない等、観光客にとって消費する場が限られるため、経済波及効果が少ないのが現状です。

④ イメージ構築に関する課題

- 旅行雑誌等のメディアへの効果的 PR が不足しており、「観光地」としてのイメージが持たれていません。
- トマトや和牛、アイヌ文化においては一定の知名度があるが、まだまだ伸び代があります。
- 特徴的な観光資源としてのアイヌ文化は、博物館等の施設見学が大半で、独自性を活かした中で、ゆっくりとアイヌ文化を体験するコースやプログラム等の工夫が必要です。

⑤ 滞在に関する課題

- 大人数や団体客が泊まれる宿泊施設が少ないと言えます。
- 観光客の滞留・滞在時間（消費）を延ばす仕組み（メニューの仕掛け）が少ないと言えます。
- 日帰りあるいは次の観光地に向かう途中の立寄り型が多いとみられ、平取町での滞留・滞在時間が短くなっています。
- インバウンドに対する環境整備や観光客へのメニュー作りが必要です。（冬のメニュー等の仕組み）

⑥ ホスピタリティに関する課題

- 町民が「観光に参加する」という意識作りが弱いと言えます。

⑦ 情報提供に関する課題

- 情報発信やプロモーションが不十分であり、観光地として認知されていません。
- 観光基礎情報の整備が不十分であり、観光客が必要な情報を入手しにくいのが実状です。
- 観光案内所がなく、観光に関する総合的な窓口がありません。

第3章 観光振興ビジョンの基本的考え方

1 基本理念

平取町観光振興ビジョンでは、観光まちづくりに向けた様々な取組みを進める道しるべとして、基本理念を以下に掲げます。

平取町の観光まちづくりは、平取という「地域（土地）」と、そこで暮らす「人（住民）」とが強くつながり、いつまでも暮らしたいまちであること、平取に愛着と誇りを持つことが原点です。

そして、地域と人がつながりながら、地域を越えた観光に町民に関わり、地域の自然や文化、食を生業に活かしていくことこそ、平取町が一体となって取り組むべき観光振興のあるべき姿です。

2 目標

■年間観光入込客数

平成23年度までで、ここ10年間の観光入込数の平均16.5万人（平成22年度を除くと16.8万人）となっていました。平成26年度観光客入込数19.7万人、平成28年度観光客入込数20.6万人、平成29年度観光客入込数22.0万人、平成30年度観光客入込数21.7万人と増加しつつあることから、近年の景気低迷と経済不況にあって大幅な増加は困難ですが、平取町は観光振興ビジョンに基づく各種の計画や施策等の推進により、4年後には目標指数を達成し、以降その数値を維持していくことを目標とします。

⇒ 令和5年度 目標 24万人（H28年度対比16%増）

○来訪者は次のように考えられます。

- ・アイヌ文化に関心の高い人々（国内・海外）
- ・身近にふれられる自然を愛好する人々
- ・安心安全で豊かな食文化に関心の高い人々

○優先ターゲットは次のように考えられます。（国内）

- ①既存来訪客をリピーター化
- ②新規来訪者
- ③通過者・日帰り園内在住者
- ④平取町を知っているが、遠方に住む人
- ⑤平取町を知らない人
- ⑥住みたいと思う来訪客

将来の平取のイメージ

- 沙流川流域の豊かな自然環境と伝統文化にふれられる
- 本物のアイヌ文化にふれられ、伝統文化が継承された日常的生活空間に浸ることができる
- 伝説・伝承の地やアイヌ語地名の場所を手軽に訪れることができる
- アイヌの伝統文化を継承する人々に活気があり、現代に継承する活動が行われている
- 義経神社や開拓の歴史など、さまざまな歴史の歩みを知ることができる
- 町民それぞれが自分たちのまちの物語を伝えることができる
- 幌尻岳等の雄大な自然景観や、すずらん群生地のような可憐な自然にふれられる
- 開拓農家の歴史を伝える農村景観や里山的な文化的景観などを学ぶことができる
- 安全で美味しい食べ物を地元で食べることができる
- 安全で美味しい食べ物を地元で気軽に購入することができる
- トマト摘み体験などの農作業を気軽に体験することができる
- 地元の生産物を利用した特産品を購入することができる
- 温泉やキャンプ場でくつろぐことができる
- 地元の人々の素朴で温かみのある人柄にふれて、何度も訪れることができる
- 海外からも気軽に訪れて、自然や文化にふれることができる
- 持続的な地域づくりの一環として、地域の生活や産業の側面としての観光に町民自らが取り組んでいる
- 観光と自然環境や歴史文化、人々の生活が協調し、町民の豊かな暮らしづくりに寄与している
- 観光が農林業、商工業等の地域の経済活動に連動し、地域の活性化に寄与している

3 基本方針

観光の視点からの「まちづくり」

まちの魅力で人を惹きつける

少子・高齢化や、生産年齢人口の都市部への流出による過疎化は、平取町においても深刻な問題です。人口減少社会に突入した日本では、外から人を引き込むことで人や物・情報の交流を活性化し、地域経済を高めていくことが考えられます。

平取町にとって望ましい観光振興とは、市場に合わせて商品を創り出すマスツーリズムではなく、伝統文化や生業の延長線上にあるものを活用して、産地型から集客型に転換することです。現在、各地で注目されている「着地型観光」の考え方而言えば、ツアー客出発地主体の送客型からツアー客到着地主体の集客型に転換していくことと言えます。

地元産業を活用した交流の仕組みづくりは、地域の自立、継続的な成長を支える上で、これからの「まちづくり」に不可欠な視点と言えます。既に平取町には世界的に評価が高いアイヌ文化資源やブランド産品等、一級品の地域資源があります。今後は、これらの魅力を最大限に活用して、交流人口を生みだしていくことが考えられます。

町民の生きがいと楽しみを伝える

まちの魅力を町民自らが楽しむ

町民が楽しめないまちは、来訪者も楽しめません。来訪者に楽しんで欲しいものは、町民がお勧めできるものであるべきです。平取町の観光は、地域にある資源や景観、環境を最大限に活用して、町民がまちの魅力ともっと関わり、生きがいと誇りをもち迎える住民と、そこに惹きつけられる人々が行きかう、活力ある地域づくりと、その魅力を実体験として伝えられるようになることから始めます。

波及効果の裾野を広げる

地域内の産業連関度を高める

観光まちづくりを進めていくためには、交流を地域産業で受け止める仕組みが必要です。集客によってサービスを提供する企業や組織は、出来る限り原材料を地元から調達したり、イベントや企画等を通じて地域との様々なタイアップを図ることで、地域内の産業連関は高まり、実利も共有されることになります。

平取町には、道内を中心に知名度のあるトマト「ニシパの恋人」や「びらとり和牛」等の農産品があります。これらを町内の各拠点で消費する直売所や加工品、飲食店を育てることで、直接波及効果を高めつつ、地域ブランドを育てていきます。

平取町では、地場産品を使用した料理の新メニューを開発し、町内飲食店で提供・発信し、交流人口の増員と町内消費の促進を深め、地域の活性化に貢献しています。

組み合わせと連携で人とものをつなぐ

多様な地域資源を組み合わせる

平取町は、沙流川流域の豊かな自然に育まれたアイヌの伝統文化が現代に継承されており、博物館等の文化施設の伝統的家屋のチセ群などのほか、木彫体験なども用意されています。それらは、アイヌ文化に関心のある人に主として利用されていますが、アイヌ文化に関心のない人には利用されづらいこともあるのが現状です。

現在、都市住民を対象とした普及啓発を進めるため、伝統的工芸品やアイヌの伝統料理、地元の食材を活かしたツアーの造成が好評で、アイヌ文化にふれるとともに、平取町の産業や自然を身近に感じる機会として、今後の平取町の観光の方向性を示唆するものと考えられます。すなわち、いろいろな地域資源を組み合わせることで結果的にアイヌ文化を広く知ってもらうきっかけが増えることになると思われます。

近隣のまちと連携する

平取町は、多様な地域資源に恵まれています。すでに周知された観光地ではなく、道東道の全線開通等の影響を受けて通過客の減少もあることから、平取町単独の地域の力だけでなく、近隣のまちと連携して広域的な地域力を活かしていくことが効果的と考えられます。

鵲川、沙流川流域のゾーンを一つの面としてとらえた広域観光圏を形成していくために、平成27年度に鵲川・沙流川 WAKUWAKU 協議会を設立しました。3町が一致協力して、官民、町民との協働により、地域の自然・文化・産業の地域資源を活かしながら、地域の振興に取り組んでいきます。また、人や資源（自然、歴史文化）、景観を惹きつける地域の魅力やブランド力を高め、適切かつ持続的に活用し交流人口の拡大に取り組んでいきます。

地域にとってのDMO（Destination Management/Marketing Organization）すなわち「観光地域づくり」の推進組織のミッション（任務や使命）を明確にし、そのミッションを果たすために最適な組織のあり方を考え、公益性を発信し認知させていきます。

第4章 施策体系と基本施策

1 施策体系

訪れてみたくなる町・びらとりの魅力を体感できる観光まちづくり

1 地域と地域をつなぐ ～交流人口を増やす～

(1) 新たな魅力をつくる

- ①地域資源の掘り起こし、見せ方
- ②町民との協働による魅力の形成・活用の推進
- ③交流型観光拠点の創出、工夫
- ④平取らしい特色ある観光ルートづくり

(2) 情報発信と連携

- ①積極的な情報発信による認知度の向上
- ②ホスピタリティ意識の醸成と郷土愛の啓発普及
- ③地域と行政の連携による情報受発信システムの構築
- ④観光案内所の開設とサービス内容の充実
- ⑤公共サイン等道路案内施設の充実

(3) 誘客の推進

- ①集客イベントの充実
- ②コンベンションの誘致促進
- ③市場とバイヤーに向けたプロモーションの推進
- ④友好都市交流等各種交流事業の推進
- ⑤都市間及び町内の移動交通と併せた誘客事業の推進
- ⑥宿泊滞在施設の充実

2 地域の資源を活かす ～観光消費をつくりだす～

(1) 体験交流型観光の推進

- ①体験型・学習型観光事業の充実
- ②各種有償ガイドの普及
- ③パッケージ型観光プランの充実

(2) 食・土産・名物づくりを推進する

- ①直売所等地場産品の販売促進
- ②ご当地メニュー等地場産品活用の推進
- ③地場産品を活用した食品開発の推進

(3) インバウンドの検討

- ①町内での宿泊、日帰り観光の可能性の検討
- ②受入れ環境の整備を推進

3 地域の人を活かす ～成果を地元から発信する～

(1) 人を育てる

- ①町民向けの地域資源講習会・勉強会の充実
- ②観光事業の担い手やプロジェクトリーダー等の人材育成

(2) 推進体制をつくる

- ①観光協会の強化
- ②地域と行政の協働プロジェクトの推進
- ③近隣市町村との連携による広域観光の推進

2 計画推進のための基本施策

1 地域と地域をつなぐ ～交流人口を増やす～

(1) 新たな魅力をつくる

① 地域資源の見直し（掘り起こし）

潜在している未利用の観光資源や穴場スポットを見直し、その価値の再認識と有効活用・見せ方の方策を探ります。

【具体的な取組み】

- ・流域資源調査事業
- ・アイヌ文化環境保全対策事業
- ・文化的景観事業
- ・イオル再生事業、かわまちづくり事業
- ・地域資源再発見事業（義経伝説、日東鉱山等）

② 町民との協働による景観の形成・活用の推進

行政と地域・町民との協働による街並み景観形成やビューポイントの整備等、景観を“魅せる”取り組みを推進します。

【具体的な取組み】

- ・シーニック・バイウエイルートの検討
- ・フラワータウンフェスタ・花いっぱい運動
- ・文化的景観等のビューポイント整備
- ・有用植物の栽培事業（S-05 植物保全地区）

③ 交流型観光拠点の創出

観光客と町民のふれあいが生まれる交流拠点を創出し、観光客の滞在時間を延ばす拠点的功能を強化します。

【具体的な取組み】

- ・二風谷地区再整備計画(二風谷コタン)
- ・二風谷ファミリーランド整備計画検討
- ・観光案内所（交流施設）整備事業
- ・交流、体験ツアーの拡充と創出

④ 平取らしい特色ある観光ルートづくり

歴史・文化・自然等、平取らしさを感じられる要素を組み合わせ、テーマ性をもったさまざまな観光ルートを設定します。

【具体的な取組み】

- ・モデルルートの沿道整備検討
- ・匠の道の整備活用推進
- ・イザベラ・バードが辿った道活用事業
- ・フットパス構想、すずらん群生地活用ルート
- ・平取ダム、幌尻岳登山口ルート

現在の取組みと実施イメージ



【二風谷コタン】

二風谷地区再整備計画で整備されたコタン、ウレシバ等の活用が期待されています。



【歴史・文化・自然を巡るフットパス構想】

豊かな森林環境を楽しむフットパスの取組みがはじまっています。また、イザベラ・バードが辿った道やアイヌの伝説が語り継がれているスポット等、平取町の歴史の中で育まれてきた資源を巡るフットパス構想をすすめていきます。



（２）情報発信と連携

① 積極的な情報発信による認知度の向上

ターゲットに応じた宣伝媒体の活用とタイムリーな情報発信により、効果的な町の認知度アップを図ります。

【具体的な取組み】

- ・マスメディアを活用した観光 PR 事業
- ・首都圏等による観光 PR イベントの開催
- ・記者発表等のマスメディア向け情報発信活動
- ・マスコットキャラクターによる発信
- ・観光パンフレット（マップ）等による発信

② ホスピタリティ（おもてなし）意識の醸成と郷土愛の啓発・普及

町民に地域の魅力を伝えと共に、町民の“おもてなし”の意識醸成を推進します。

【具体的な取組み】

- ・広報誌等による町民向け PR 活動の実施
- ・HP、Facebook による情報発信

③ 地域と行政の連携による情報受発信システムの構築

観光事業に携わる団体と行政との連携を強化し、協働による効果的な観光振興のための情報共有システムを構築します。

【具体的な取組み】

- ・WEB を活用した観光情報受発信システムの整備（SNS の活用等）
- ・平取町観光協会との情報共有
- ・デジタルマーケティングの活用

④ 観光案内所の開設とサービス内容の充実

観光案内所の開設によりインフォメーション機能の充実を図り、豊富な観光情報とサービスを提供します。

【具体的な取組み】

- ・観光案内所の設置
- ・観光情報の収集と発信
- ・観光マーケティング調査
- ・観光案内

⑤ 公共サイン等道路案内施設の充実

車での移動やまちあるきの利便性向上のため、案内標識の設置や改善、また観光案内看板等の増加・多言語化を推進します。

【具体的な取組み】

- ・観光サイン整備事業
- ・多言語化の推進

現在の取組みと実施イメージ



【びらとり観光案内所（イメージ）】



匠の道
サイン・舗装



(3) 誘客の推進

① 集客イベントの充実

既存イベントの見直しにより更なる魅力アップを図るとともに、新たな交流人口を生み出す新規イベントを検討します。

【具体的な取組み】

- ・すずらん群生地を整備活用計画
- ・チノサンケの魅力充実
- ・沙流川まつりの魅力充実
- ・全道 PK グランプリの魅力充実
- ・にぶたに湖・平取ダム湖周辺、二風谷コタン等を活用したイベントの検討

② コンベンションの誘致促進

コンベンション誘致のための PR 資料作成や助成制度を検討し、各団体への積極的なプロモーション活動を展開します。

【具体的な取組み】

- ・アイヌ文化関連シンポジウムの開催
- ・文化的景観セミナーの開催誘致
- ・学校等団体旅行誘致活動

③ 市場とバイヤーに向けたプロモーションの推進

各種イベントへの出展等を通じて、一般市場やビジネス市場への観光 PR や情報提供を推進します。

【具体的な取組み】

- ・展示会等への出展事業（札幌オータムフェスト、札幌駅前地下歩行空間、大通り PR 等）
- ・商談会等への出展事業

④ 国際交流等各種交流事業の推進

継続的な交流事業を通して都市と都市の結びつきを育みます。

【具体的な取組み】

- ・北欧先住民族等との国際交流事業
- ・台湾原住民族との国際交流事業
- ・南あわじ市との友好都市交流事業

⑤ 都市間及び町内の移動交通と併せた誘客事業の推進

公共交通等の活用により、訪れやすく周遊しやすい平取観光を推進します。

【具体的な取組み】

- ・札幌往復シャトルバスの運行
- ・都市間観光バス等の運行
- ・幌尻岳登山バスの運行
- ・町内移動手段の多様化検討、推進（レンタルサイクル等）

⑥ 宿泊滞在施設の充実

平取町の観光ニーズに合わせた多様な宿泊環境の整備・充実を推進します。

【具体的な取組み】

- ・宿泊施設新設の計画検討
- ・幌尻山荘、キャンプ場改修事業
- ・民泊、農泊事業の検討

現在の取組みと実施イメージ

【既存イベント】



すずらん観賞会



びらとり沙流川まつり



義経雪あかり



チナサンケ



義経神社例大祭

【プロモーション】



札幌駅前通地下歩行空間に
おける PR イベント



(於：札幌)における PR イベント



びらとりトマト・和牛フェア
(於：札幌)



札幌往復貸切バス運行

2

地域の資源を活かす ～観光消費をつくりだす～

(1) 体験観光を育てる

① 体験型・学習型観光事業の充実

アイヌ文化や農業体験等、平取ならではの体験・学習型プログラムを創出します。

【具体的な取組み】

- ・体験型観光の支援（農作業等）
- ・アイヌ文化体験ツアーの企画運営
- ・文化的景観バスツアーの企画、実施

② 各種有償ガイドの普及

各種ガイドの有償化の手法を検討し、その普及を図ることで新たな観光産業を創出します。

【具体的な取組み】

- ・アイヌ文化（博物館）ガイドの有償化
- ・「びらとりガイド」の有償化

③ パッケージ型観光プランの充実

観光客のニーズに合わせて観光素材を組み合わせた、パッケージ型観光プランの提供を推進します。

【具体的な取組み】

- ・イベント体験ツアーの開催
- ・アイヌ文化体験パッケージの商品化
- ・体験付き宿泊プランの商品化

現在の取組みと実施イメージ



【平取町アイヌ文化情報センター】

木彫や刺繍をはじめとしたアイヌ文化体験を行うことができる施設



【ガイドによる紹介】
(イメージ)



【制作風景の紹介】
(イメージ)



【ツアーガイドによる説明】



【モニターツアー】

アイヌ文化体験×食（トマト・和牛等）×フットパス等のモニターツアーを実施。

(2) 食・土産・名物づくり

① 直売所等地場産品の販売促進

観光客や町民、観光関連事業者が地場産品を
購入・仕入できる環境を整えます。

【具体的な取組み】

- ・農産物直売所の展開
- ・独自性のある料理やスイーツ
- ・アイヌ伝統的工芸品の販売体制の強化

② ご当地メニュー等地場産品活用の推進

地場産品を活用したメニューづくりや、飲食
店や宿泊施設における地場産品の利用を推進
します。

【具体的な取組み】

- ・地場産品を活用した新メニュー開発の推進
- ・飲食店等における地産地消推進体制づくり
- ・平取産米日本酒の開発、活用

③ 地場産品を活用した食品開発の推進

地場産品を使用した土産品等、魅力ある加工
食品の開発を推進します。

【具体的な取組み】

- ・土産物食品開発の推進
- ・エゾシカ食品の開発検討

(3) インバウンドの検討

① 町内での宿泊、日帰り観光の可能性の検討

【具体的な取組み】

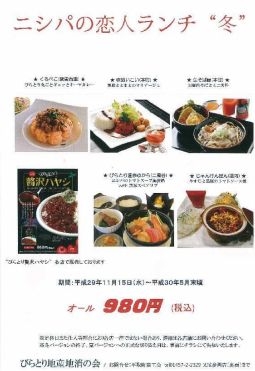
- ・外国人の観光や滞在についてのニーズを把握
- ・ターゲット層の把握、地域資源の活用、提供

② 受入れ環境の整備を推進

【具体的な取組み】

- ・観光施設の外国語サイン、PRツールの作成
- ・宿泊・サービス施設の食や関連サービス適合

現在の取組みと実施イメージ





【ニシパの恋人ランチ】

地元飲食店5店による団体“びらとり地産地消の会”が、各店舗にて独自に考案した、平取町の地場産品を使用した新メニューを提供。

→ 和牛カレー



→ トマトアイス



→ 青いトマトジャム



3 地域の人を活かす ～成果を地元から発信する～

(1) 人を育てる

① 町民向け地域資源講習会・勉強会の充実

町民が町の魅力を学ぶ機会を創出し、その参加を促進することで、観光ボランティアの裾野を広げます。

【具体的な取組み】

- ・ シシムカ文化大学の開催
- ・ 町民向け観光体験ツアーの開催
- ・ 町民向け地域資源学習講座の開催

② 観光事業の担い手やプロジェクトリーダー等の人材育成

観光事業の担い手となる団体や人材を育成するプログラムの充実を図り、観光を活用した地域産業の活性化を推進します。

【具体的な取組み】

- ・ 観光ガイドの育成講座の開催
- ・ 観光プロジェクトリーダー養成講座の開催
- ・ 地域おこし協力隊との連携

(2) 推進体制をつくる

① 観光協会の強化

町のPRやイベント運営等、あらゆる観光関連事業の円滑な実施のため、観光を専門の業務とする平取町観光協会の体制を整えます。

【具体的な取組み】

- ・ 平取町観光協会の法人化の推進
- ・ 観光に関する行政との棲み分け
- ・ 観光事業の見直し、体制作り
- ・ 収益事業の推進

② 地域と行政の協働プロジェクトの推進

観光事業などを実施する地域団体等と連携し、地域と行政が一体となったイベント事業を推進します。

【具体的な取組み】

- ・ 町民税1%まちづくり事業
- ・ 商工まつりへの助成事業

③ 近隣市町村との連携による広域観光の推進

近隣市町村と連携した観光モデルルート設定等により、域内の周遊や滞在促進を図ります。

【具体的な取組み】

- ・ 連携事業の促進に向けた協議
- ・ 鵜川・沙流川 WAKUWAKU 協議会事業
- ・ 地域連携 DMO プロモーション事業

第5章 アクションプログラム

1 アクションプログラム

具体的に推進していく計画をアクションプログラムと位置付け、目標に向けて段階的に取り組んでいくこととします。なお、計画の推進にあたっては、各年度の進捗状況や状況変化、予算状況等に対応し、目標設定や事業内容を柔軟に変更しながら計画の実効性の確保に努めます。

アクションプログラム

「びらとり・食と文化のネットワーク」プログラム

「にぶたに・文化と憩いのネットワーク」プログラム

「森と海を川でつなぐネットワーク」プログラム

「心をつなぐ・おもてなしネットワーク」プログラム

基本方針にもとづき、基本施策と具体的な取り組みを次のように設定します。

凡 例

【実施期間】

短期：概ね1～2 年内に実施 中期：概ね3～4年内に実施 長期：概ね5年内に実施 継続：継続事業

【実施主体】

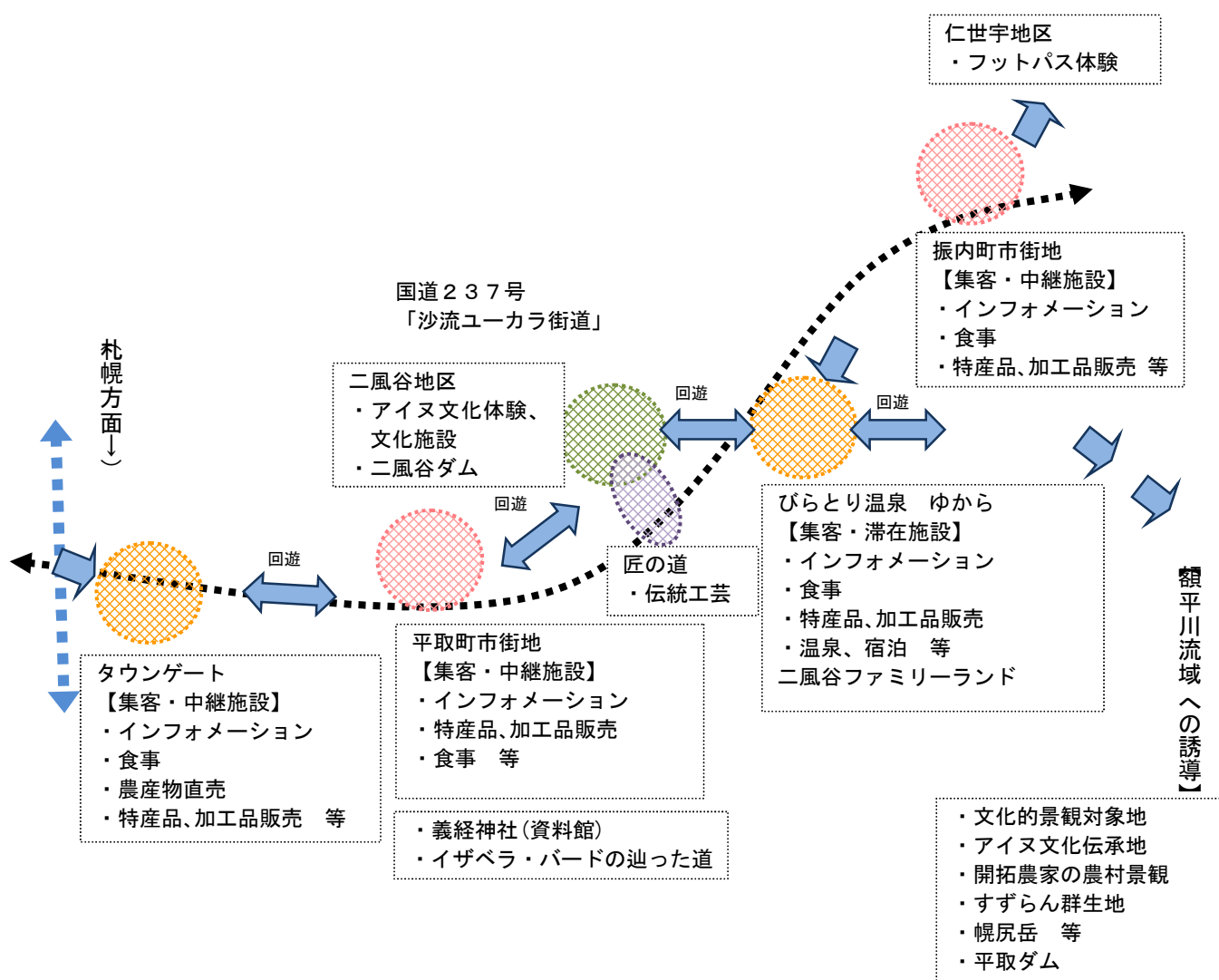
行政：平取町、 協会：平取町観光協会、 団体：商工会・組合・協議会等、 民間：民間企業・町民

◎ 主体的に実施する組織 ○ 実施にあたり主体的に協力する

「びらとり・食と文化のネットワーク」プログラム

国道237号「沙流ユーカラ街道」を軸線として、二風谷地区を中心拠点に位置付け、平取町の南側から北側までの国道沿線の主な市街地毎に、インフォメーション・地域の特色を活かした食事、特産品の販売等を提供する中継・集客拠点のネットワーク整備を計画・実行します。

それらのネットワーク拠点への立ち寄りをきっかけとして、国道沿線の二風谷地区をはじめとする集客拠点への回遊を促進し、さらに額平川流域の荷負・貫気別・芽生・豊糠方面のアイヌ伝承地や開拓財産、開拓農家のある農村景観、すずらん群生地、幌尻岳への誘導を行います。



「びらとり・食と文化のネットワーク」プログラムスケジュール

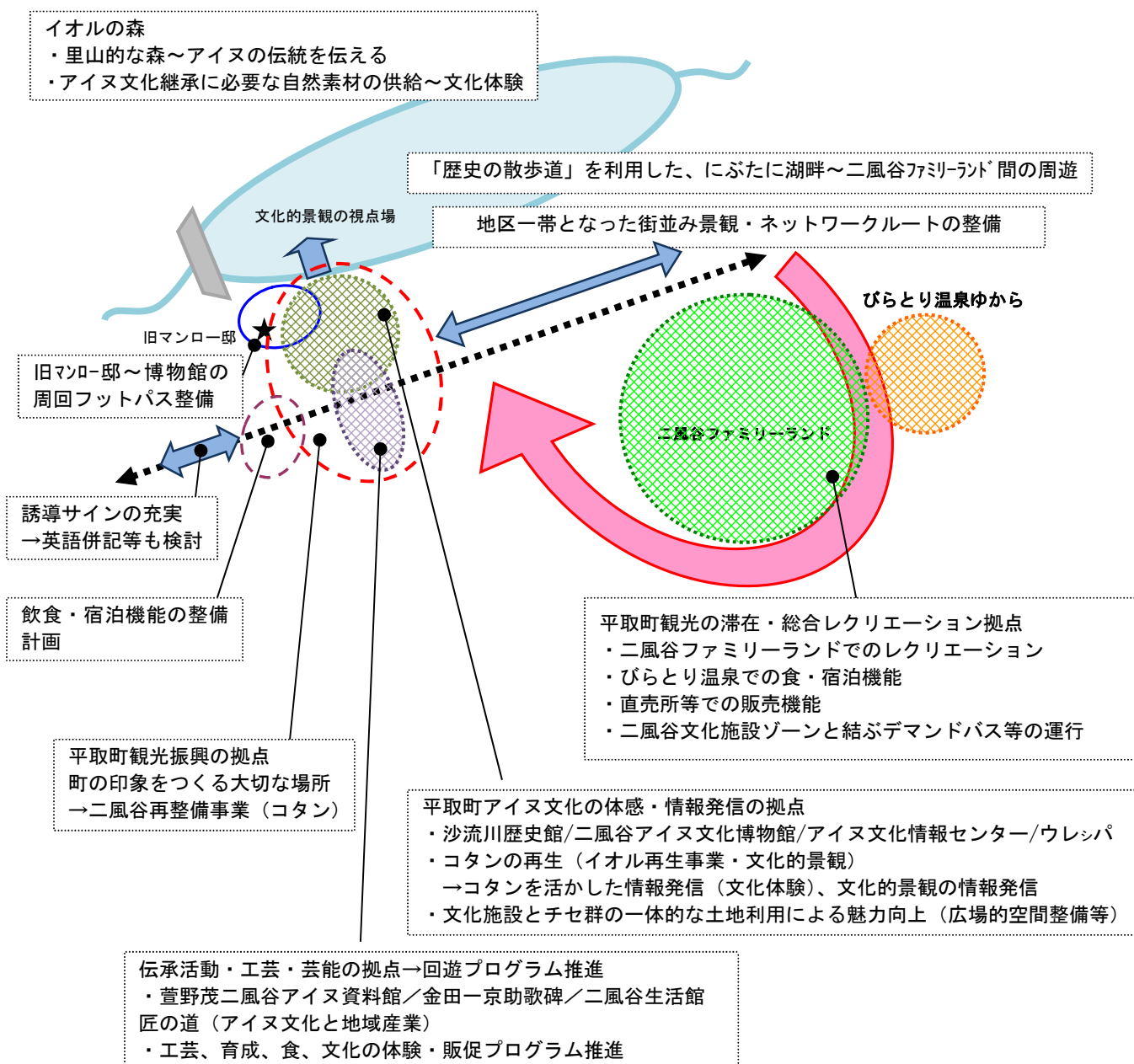
■具体的な取組の方向

推進計画	取組み・活動内容	実施主体・協力団体				
		実施 時期	行 政	協 会	団 体	民 間
観光インフォメーション機能設置	観光案内所（交流施設）の設置 観光情報の収集と発信	中期	◎	○	○	
ニシパの恋人ランチキャンペーン	飲食店等の地産地消推進体制 地場産品を活用した新メニュー	継続	○		○	◎
体験農園機能設置	体験型観光の支援	長期	○	○	○	◎
農産物、特産品等総合販売所	農産物直売所の展開 地場産品の販売促進	中期	○	○	◎	○
飲食・宿泊等施設整備事業	宿泊環境の整備・充実	長期	○	○	○	◎
インバウンドの検討	外国人観光のニーズ調査・ター ゲット層の把握	中期	◎	○		○
アイヌ文化と回遊コンテンツ	アイヌ文化、食、温泉等を活か した継続事業	短期	○	◎	○	○

「にぶたに・文化と憩いのネットワーク」プログラム

二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館等の文化拠点とびらとり温泉等レクリエーション拠点をつなぐ森林・湖・集落（コタン）・丘陵地帯をフィールドに、アイヌ文化と自然を体験し、また平取町アイヌ工芸伝承館（ウレシパ）で工芸体験をしながら、平取町の基幹産業である農業から生まれる食を集約的に満喫できる施設整備と滞在プログラムを計画・実行します。

アイヌ文化に関しては、国内だけでなく海外からの来訪者に関心が高いことから、サイン表記や伝統工芸品の販売促進につながる環境整備など、海外向けの対応も行っていきます。



「にぶたに・文化と憩いのネットワーク」プログラムスケジュール

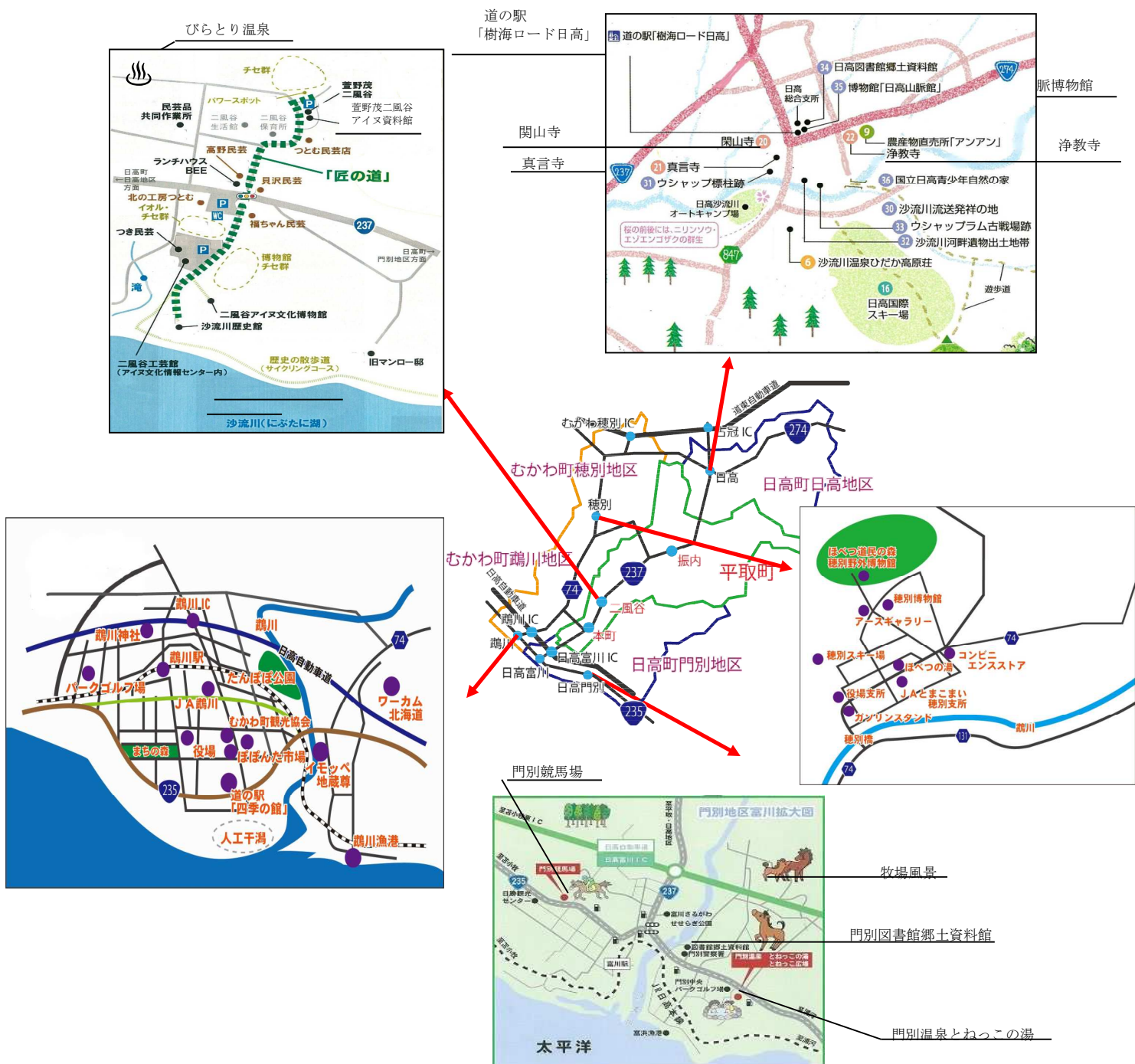
■具体的な取組の方向

推進計画	取組み・活動内容	事業主体・協力団体				
		実施 時期	行 政	協 会	団 体	民 間
都市農山村交流事業	札幌・新千歳・平取間シャトルバ コミュニティ交流バス	継続	○	○		◎
アイヌ文化体験事業1	「ユカラと語りべ」等	継続	○		○	◎
アイヌ文化体験事業2（山菜）	イオル再生事業と連携	継続	○		○	◎
アイヌ文化体験事業3（雑穀）	同上（収穫体験）	継続	○		○	◎
アイヌ文化体験事業4（チセ）	同上（ポロチセ開放）	継続	○		○	◎
アイヌ文化体験事業5（工芸）	工芸のチセにて実演	継続	○		○	◎
アイヌ工芸伝承館（ウレシパ）	展示、体験、研修、育成等	継続	○	○	○	◎
「匠の道」・伝統工芸品 PR	沿線の環境整備	継続	◎		○	○
フットパス体験	旧マンロー邸～	継続	○	○	○	◎
カフェテラスの設置	休憩、憩いの場	継続	◎	○		○
アイヌの魅力発信事業	アイヌ文化の魅力の情勢、アイヌ文 化を絡めたアトラクション	短期	○	◎	○	

「森と海を川でつなぐネットワーク」プログラム

沙流ユーカラ街道（日高町）や鶴川・沙流川ペアラインゾーン（むかわ町）などから発展した、3町一体となった協議会（鶴川・沙流川WAKUWAKU協議会）を活かし、地域の特性に合った、観光まちづくりの新たな視点、広域観光ネットワーク圏を形成することにより、観光客のさまざまなニーズやリピーターを受け入れる平取町および周辺地域の魅力の向上する連携プログラムを計画・実行します。

さらに、占冠村等の道東自動車道との幹線観光ルートとの結節点との連携も検討していきます。



「森と海を川でつなぐネットワーク」プログラムスケジュール

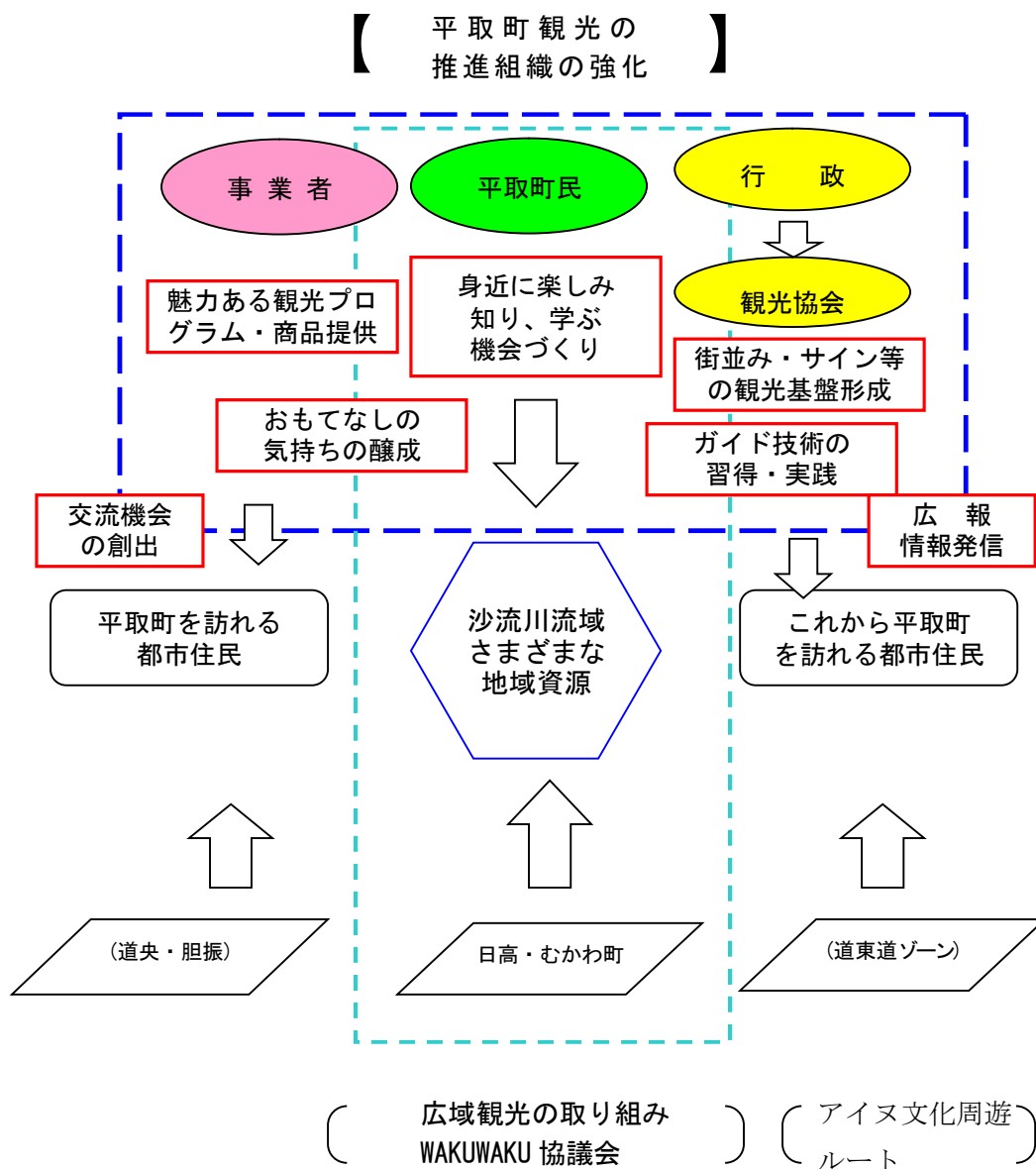
■具体的な取組の方向

推進計画	取組み・活動内容	実施主体・協力団体				
		実施 時期	行政	協会	団体	民間
平取町・日高町・むかわ町・ 広域観光連携（WAKUWAKU 協議会）	広域交流圏域の形成、地域の活性 回遊ツアー実施事業	継続	○	◎	○	○
平取町・日高町・むかわ町観光協 会広域観光連携	鶴川・沙流川流域への誘客促進 DMO 運営事業、プロモーション事業、	継続	○	◎	○	
平取町・日高町・むかわ町・ 占冠村等広域観光連携	広域交流圏域の形成、地域の活性	中期	○	◎	○	○

「心をつなぐ・おもてなしネットワーク」プログラム

平取町を訪れる観光客を快く受け入れるために、平取町民が地域の魅力を楽しみ誇りに感じ、お客様を心からもてなすことができる意識啓発とガイド技術の向上、平取町の隣接地域との連携による広域観光に取り組む意識や事業の共有化、平取町を訪れる都市住民との交流など、人と人、地域と地域をつなぎ、平取町観光の推進体制を強化するプログラムを計画・実行します。

具体的な推進体制の強化策としては、町民のホスピタリティ（おもてなしの心とマナー）の醸成とともに地元ガイド等の人材育成、さらにこれまで平取町役場内に事務局が設置されていた平取町観光協会を役場から独立した運営形態への移行を実行していきます。



「心をつなぐ・おもてなしネットワーク」プログラムスケジュール

■具体的な取組の方向

推進計画	取組み・活動内容	実施主体・協力団体				
		実施 時期	行 政	協 会	団 体	民 間
地域ガイド養成	人材バンクの整備等	中期	◎	○	○	○
地域住民参加活動	懇談会や見学会の開催等、団体招聘（説明会等）	中期	◎	○	○	○
情報発信・広報活動	インターネット・都市圏PR活動・電子情報ツールの整備、プロモーションの活用	継続	○	◎		
都市住民との交流活動	地元行事への参加促進等、運行バス、タクシー、モデル運行計画	継続	◎	○	○	○
平取町・日高町民参加活動	イザベラ・バードの道フットパス等	中期	○	○		◎
道央、胆振・道東道ゾーンとの広域観光連携	段階的な連携造成事業実施等 広域ツアーの実施	長期	○	◎		
平取町観光協会の機能強化	役場内事務局の独立化（R3）	短期	○	◎		